

## 生きる喜びを発見しよう

地区ガバナー 佐藤千壽

金永韶 R・I・会長代理、当三五八区外各地区のPastor・ガバナー、現ガバナーの皆様、そして遠くグアム、サイパン、沖繩からも馳せ参じたこのおびたしい数の同僚ロータリアン並びに御家族の皆さん——ようこそおいで下さいました。こゝで私は先ず第一に、この大会の目的について申し述べたいのでありますが、その前に一寸私共の地区の現況について御報告申し上げます。

これにつきましては、昨晚の前夜懇談会でもやゝ詳しく申し上げましたので、たゞ今は簡単に統計的なことを報告するにとどめます。即ち当地区のクラブ総数は八一、会員はこの七月一日以降毎日一人ずつの割合で増え続け現在五、五一一名、一クラブの平均会員数は六八名であります。然し、何を措いても皆様に御報告し、そして感謝申し上げなければならぬことは、ロータリー財団と米山奨学基金への多大なる御協力であります。七月一日以降最近の十一月十八日

迄、わずかこの三ヶ月半の間に皆様から財団へお寄せ頂いた浄財は、何と一九三、〇九二ドルで当初よりの累計は遂に一、一八八、二五〇ドルに達しました。これによって当地区は、世界にただ二つの「百万ドル地区」と呼ばれる栄誉をになうことになりました。その中でもポール・ハリス・フェローの増加は殊の外めざましく、この三ヶ月半の間に一六三名のポール・ハリス・フェローが誕生致しました。更に米山奨学基金に対しましても、本年度に入りましてから本日までの期間に九、一八三、〇〇〇円の特別寄附を頂き、個人で一六人、団体で五つの方々をこの大会の席上、米山功労者として表彰申し上げることになりました。

さて数字的なことはこの程度にとどめ、こゝで私共は地区大会の意義、目的について少し考えてみたいのであります。国際ロータリーは、地区大会の目的として、地区内クラブの運営事項ならびに R・I・全般に関する問題の討議、ということと並んで、親睦、交歓、感銘深い講演、ということを挙げて居ります。即ち大会は、単にロータリーに関する問題の討論、決議という様な事務的行事にとどまるものではなく、多くのロータリアンとその家族が一堂に会し、歓びを分かち合い親睦を深めるといふ所に大きな意義があるのであります。

されば地区大会はロータリアンにとって、一年に一度のロータリーの祭典であるといふべきでしょう。即ち大会を、その本来の正しい意味に於て「祭り」として認識することが肝要であり

まして、祭りの意義を知らない為に、時に大会に対する誤った批判が出たり、また逆に単なる形式的運営に過ぎない空しい大会に終ったりするのであります。

そこで、祭りというものの本来の意義を一寸考えてみましょう。凡そ如何なる民族も曾て祭りというものを持たなかったものは無いのでありますが、祭りは発生的には人間と神霊の交わりであり、それを表現する宗教的儀礼であります。然し、神霊観念が原始的なものから変化し複雑化して来た今日でも、なお祭りという行事が、人間の存在する所必ず存在するということには、まことに人間存在の根源に触れる重要な意義があります。つまり祭りは、それが一民族、あるいは一部落という限られた範囲のものから、国家的祭祀に至るまで、それぞれ発展の段階と範囲が違っても、均しくその構成員の集団意識を高揚し、結合を強化し、生きる喜びを誘発し再認識させるという目的を持って居ります。そしてその祭りという行事をより効果あらしめる為に、そこに優れた文学と芸術が生まれたのであります。また、祭りは同時にまつりごと、即ち政治であると考えられています。集団の構成員が連帯結合し、共により良く生きようとする所に政治が生まれるのである限り、今こゝに述べた様な意味に於ける祭りが、即ちまつりごとと繋がるのは極めて当然の道理であります。

こう考えてきた時に、国際大会にせよ、地区大会にせよ、ロータリーに於ける一年一度の年次大会が、ロータリーという集団の祭りであると同時にまつりごとであるという意味が、充分御理解頂けると思います。従って大会の行事にはお祭りの要素とまつりごとの要素とが共存しているのであって、何れか一方に偏した大会であつてもならないのであります。

ともかく、地区大会がこの様な意味に於けるロータリーの祭典であるとするなら、それは先ず参加することに意味があります。一人でも多くのロータリアンとその家族とが参加すること、先ず大会はそれを要求します。国際ロータリーが各地区の大会参加者数に深い関心を示し、各年毎のその統計表を用意しているのもその故であります。そういう見地から見た時、本日のこの大会はいかがであります。何とその登録者数は三、二〇二名——三五八区始まって以来の空前の記録的数字であります。(一九六五年の東日本六地区連合大会でも、その登録者総数は三、〇五三名でした。)然も三五八区は今や東京都を主体として、それに沖縄、グアム、サイパンという遠隔の島々を加えただけの地域に縮小したのでありますが、それでお且つ史上最高の登録者数を見たということは、まことに大会を意義あらしめるという点に於てこの上ない喜びであります。更に敢て一言つけ加えさせて頂くなら、我が地区に関する限り、この大会に参加する為に、振替とか移動例会とかいう詭弁を弄して、その週のクラブ例会を事実上廃止した様なクラブは一つもないということに注目して頂かねばなりません。勿論その様なこ

とは明らかに定款違反でありまして、無いのが当然なのでありますが、当り前のことが当り前に行われなくなっているのが、病める現代の世相であります。然るに本日の大会には、遠く三多摩の奥地に於ても正しく例会を開催した上、早朝夜も明けきらぬ中からバスを仕立て、更にある者は都心のホテルに前夜から泊りがけで、この様に多数の方々が参加されました。更に加えて遠く沖繩、グアム、サイパンからも多数のロータリアンが参加して居ります。言うまでもなくロータリーの真髓は理窟ではなく、心であり行動であります。日本のロータリーを支えてゆく者は、正にこの様な熱意溢れる誠実な心を抱いて、活力に満ちた行動を示されたこの方々でなくて何でありましょう。

ところで、この様に未曾有の記録的な数のロータリアンを動員し、堂に溢れる盛況を眺めた時、まことにそれは豪華な大会の姿であります。そこで私は敢えて本年三月、ロータリー年度にすれば前年度の、当地区年次大会に於て採択された「ロータリーを簡素にする」という決議について触れてみたいと思います。世には時折ことの真実を見ず、短絡した思考しか出来ない輩もあって、簡素な行事とは、けちな淋しい小人数の集りで行うものと考えられる惧れがあるからです。然し、簡素ということはそんなことは全く次元の違う問題です。分り易くする為に簡素をそれと対立する反対の言葉から考えてみましょう。簡の反対は繁あるいは煩で、鬱陶し

く煩わしいこと、素の反対は奢りであり、浪費であります。繁文縟礼という言葉があります。繁文縟礼を簡素にせよと言ったのは繁文縟礼を戒めたのであって、充実した盛大豪快な活力溢れる行動をこそ、寧ろ期待するものでありましょう。ある人はまた簡素という言葉に藉口して、ロータリーを安直なものにしようとするかも知れません。現代の病いの一つは、安直なる奢りであり驕慢であります。簡素はその反対の極面にあるものであって、真実の意味に於ける贅沢でもあります。即ちジャン・コクトオの言葉をかりれば、「贅沢は金銭とは関係ない。贅沢は買えないものだ。贅沢は安楽でないことをものともしない人々が得る報酬だ。贅沢は私たちを自我と対面させ、魂の糧となる」のであります。その意味に於て贅沢は美德なのです。

こゝで一寸東京南ロータリー・クラブの安積得也さんの言葉を引用させて頂きます。安積さんはその著書の中で、人生で大切なのは道程だ、終着駅よりその途中の光景が大事なのだと言っています。そして人生をハイキングに譬えて、行く先だけがハイキングの全部だと思っている人は、食事をする時便所のことしか考えない人だときめつけています。地区大会だってそうで、大会でロータリーの議論だけすればあとは何もなくてもいゝと言うのは、人生に於けるその道程の意義を知らない人の話で、「簡素」とは決してそんなことを言ったものではありません。

それはともあれ、皆さん、「自我と対面させ、魂の糧となる」——この言葉に注目しましょう。